

視覚支援教材の紹介



見て分かるようにすることで、
「何を」「どうするのか」が分か
り、自分で行動できることが増
えます！

<朝用>

<帰り用>



【日常生活の指導】

小学部 『自分で準備できるかな』

<ねらい>

朝と帰りの準備の一連の流れをスムーズに行うことができる。

<ポイント>

口頭での指示は、日によって、また、人によって順番が違うことがあります。手順表を自分で確認すれば、毎回同じ流れで進めることができます。済んだらくりりとひっくり返します。どこまで済んだのかが一目瞭然。やがて、手順表がなくても自分で準備ができるようになります。

【日常生活の指導】

小学部 『やりたいことボード』

<ねらい>

やりたいことのカードを選び、教師に手渡すことで伝えることができる。

<ポイント>

対象児専用のホワイトボードを入口扉に設置し、マグネット式の写真カードを貼っておきます。初めは2択から始め、対象児の好きなことに合わせ、カードを調整します。自分でカードを選んだら「○○ください」と言って担任に手渡すよう、サブの教師が促します。徐々に、カードを手掛かりに、自分の要求を伝えられる場面が増えていきます。



【日常生活の指導】

小学部 『おでかけボード』

<ねらい>

行きたい場所のカードを選び、教師に手渡すことで伝えることができる。

<ポイント>

扉に場所の写真カードボードを設置し、マジックテープで取り外しができるように写真カードを重ねて貼っておきます。対象児が行きたい所のカードを選んだら「○○行ってきます」と言って担任に手渡すよう、サブの教師が促します。カードを手掛かりに自分の行きたい場所を伝えた後、「いいよ」「いってらっしゃい」と言われたら出掛けるようにしていきます。





【日常生活の指導】

小学部 『どこでも上靴お片付けかご』

<ねらい>

脱いだ上靴を、所定の場所に片付けることができる。

<ポイント>

上靴を脱ぎたくなった時に、脱ぎ捨てるのではなく所定の場所に自分で入れるようにします。初めは教師がかごを近くに持っていき、入れるように促します。徐々に手で指し示すことでかごに入れるよう促し「脱いだら入れる」が定着するようにしていきます。さらには、かごがある時は「脱いでもよい場所」「脱いでもよい時」というルール作りにも活用できます。



【日常生活の指導】

小学部 『ここで待っててね印』

<ねらい>

どこで待つとよいのかが分かる。

<ポイント>

言葉での指示では分かりづらい場合、「ここで待つよ」という指示が、見て分かるように貼り付けます。



【図エ】

小学部 『模様を作ろう』

<ねらい>

どのような模様ができるのかが分かり、自分の好きなスタンプを選び、作品作りができる。

<ポイント>

どんな模様になるのかを見て、スタンプを選ぶことができます、また、ペットボトルキャップのサイズや綿棒を束ねる等、児童が持ちやすいようにしてあります。

【音楽】

中学部 『リズム打ちをしよう』

<ねらい>

音符や休符の拍のとり方が分かり、リズムを作ったりリズム打ちをしたりすることができる。

<ポイント>

音符や休符の種類と拍の長さをまずは一致できるようにします。できるようになったら、音符や休符のカードを組み合わせ、自分なりのリズムを作り、リズム打ちを楽しめます。



【作業学習】

高等部 『作業製品の工程表』

<ねらい>

手順表を手掛かりに、自分で作業製品を完成させることができる。

<ポイント>

生徒が確認しながら作業を進められるよう、ポイント部分をイラストと共に端的に説明文を付けます。個人の手元にあることで、自分のペースで確実に作業を進めることができます。

